



NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 代表理事 高橋 048-462-9912

身近な自然を知って守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>

一緒に自然に親しみ、ボランティア活動をしましょう 随時会員募集中

## 大坂ふれあいの森特集

### 大坂ふれあいの森の隣接地を湧き水公園に

大坂ふれあいの森の隣接地が開発され、角地の家も取り払われて全体が売地となっています。このままでは大坂の湧水の存在が危ぶまれます。この隣接地全体または一部の取得の要望を提出しています。現在その交渉が行われている状況です。これからも皆様にお知らせしていきますので、ご協力お願いいたします。



湧き水の会の手作りの小型水車

#### 1. 大坂ふれあいの森周辺の現状と将来

国道 254 の白子 2 丁目付近は、今まであった斜面林の宅地化が急激に進んでいます。国道 254 の大坂付近では、道路の両側にあった斜面林や柴崎邸の森が開発され、マンションが建設され、ビルが林立する地と化してきています。これに加えて大坂ふれあいの森の隣接地の宅地開発は、都市部に残された大坂ふれあいの森の貴重な自然を維持することができず、永久に失うことになりかねません。大坂ふれあいの森は本来“緑と湧き水にふれあえる森”です。湧水活用の重要性から、隣接地を湧水にふれあえる水辺を備え、昔をしのばせる水車などを備えた湧き水公園とし、今ある大坂ふれあいの森と一体となった都会の中の小さなオアシスとして残していくことが大切ではないでしょうか。大坂にはかつて水車があり粉ひきに使われていました。この和光の特徴を大坂で実現したいと考えます。

#### 2. 水路は昔の水車跡の小川

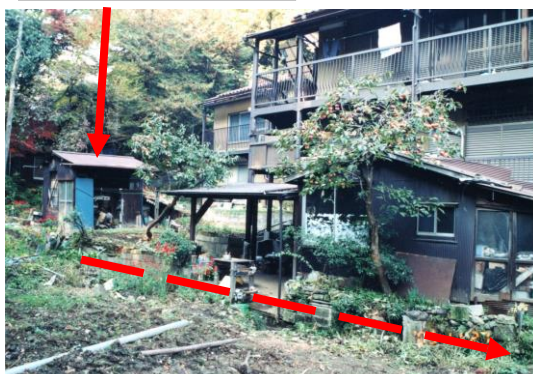
大坂ふれあいの森とその森に囲まれた隣接地では、南、西、北面から湧き水があり、これを集めてかつては水車を回し、小川となって東に流れていました。

この小川を利用した洗い場が作られていました。今でもオニヤンマやオオシオカラトンボが飛び交います。これら 4 点の写真は、柴崎家の南側にある水路の様子です。



かつての水車小屋

湧き水の小川の様子



かつて水車が稼働しその流れが小川となっていました。パイプからは水量豊富な湧水が湧き出し、洗い場として使っていました。常にこのような水路は、手入れを続けていないと土で埋まってしまう。

湧き水の小川

( 2005 年 11 月撮影)

### 3. 大坂ふれあいの森の境界

2019年2月に、隣接地との境界が明確になり、南側の斜面林下にある池と沼地が含まれます。南側斜面林からも、湧水が湧き出し、水路を作ると絶え間なく湧き水の流れがあり、池も満たしています。現在の大坂通り側から流れ込む小川をもとのように整備すると、南、西、北の3方向から湧水が集まる湿地（沼地）の環境が保たれます。

### 大坂ふれあいの森の開設とその後の活用と現状：2008年4月1日～2019年

大坂ふれあいの森の開設が決まり、その準備として、2007年11月に貴重植物の生育範囲や湧水の水路について、湧き水の会でマーキングを行いました。貴重植物保護に関しては、カタクリやイチリンソウ自生地保護、湧水源頭域保護、急斜面保護、湧水路保護を考慮してテープを張り、現在の大坂ふれあいの森のおおよその区画を決めました。1999年から2000年にかけての白子湧水群自然環境調査の結果を活用して決めたものです。

マーキングを基本として、保護地域との境には擬木とロープが設置され、水路のある所には板状の橋が置かれ、回遊ができる現在のふれあいの森となりました。

2008年4月19日開設記念観察会を開催することができました。当日は地権者の富沢権一様においでいただき、森の利用についてお話を伺いました。

この時から当会は地域の会「白子大坂ふれあいの森の会」に協力して、毎月1回の保全活動が始まりました。

2009年には、環境大臣賞、同年日本自然保護協会の沼田真賞を受賞することができ、授賞記念冊子の表紙を大坂ふれあいの森の写真で飾りました。2010年には、愛知で開かれた「COP10」でのパネル発表を行いました。



大坂で富沢権一氏のお話を聞く



新緑に輝く大坂ふれあいの森

東京学芸大学教授小泉武栄先生から白子湧水群の観察会の依頼を受け、大学生や地質に興味のある方々の案内をしました。このことが基で、4年生の佐々木夏来さんが「埼玉県和光市白子・大坂ふれあいの森の地生態学的調査」を卒業研究として行うことが決まり、調査に協力し、2012年9月に卒業論文を発表しました。2014年和光市自然環境調査を行い、それをもとに和光市自然環境マップを環境課との協同事業として作成し活用されています。

調査研究の協力をご縁で、小泉武栄先生を講師にお呼びし、「和光市 緑と湧き水環境フォーラム in 和光」を2012年1月に開催することができました。小泉先生の講演では、地生態学的な見方から、大坂ふれあいの森のすばらしさ、富沢湧水の湧き水の仕組みがわかる地層の大切さ、など大変有意義なフォーラムが開催できました。

この活動から毎年様々な観察会を白子湧水群で開催することになりました。なかでも、お茶の水女子大学地理学巡検は、大学の正規の授業に組み込まれ、また小学校の地域を知る授業「学区探検授業」で湧き水のある地域を案内し、和光の自然の特徴を講義したり、富沢湧水と大坂ふれあいの森が重要な自然環境として広く知られるようになりました。毎月の保全活動は休まず継続しています。和光市の重要な湧水のある緑地として、維持管理を市民の手で行ってきました。この間、大坂ふれあいの森は1年間だけ和光市協働事業として活動しただけで、この時以外は協働事業にはならずボランティアとして認識され続けてきました。しかしながら、大坂ふれあいの森は、自然豊かな湧水のある森を維持し、観察会や学校教育で最も活用されているふれあいの森であり、保全活動が継続できるよう、今後も十分に湧水環境維持されることを切望します。

隣接地周辺の開発の波が押し寄せてきたのが、2017年から始まり、現在に至っています。